

東北地方 1 か月予報

(1 2 月 1 1 日から 1 月 1 0 日までの天候見通し)

平成 2 2 年 1 2 月 1 0 日
仙台管区气象台発表

< 予想される向こう 1 か月の天候 >

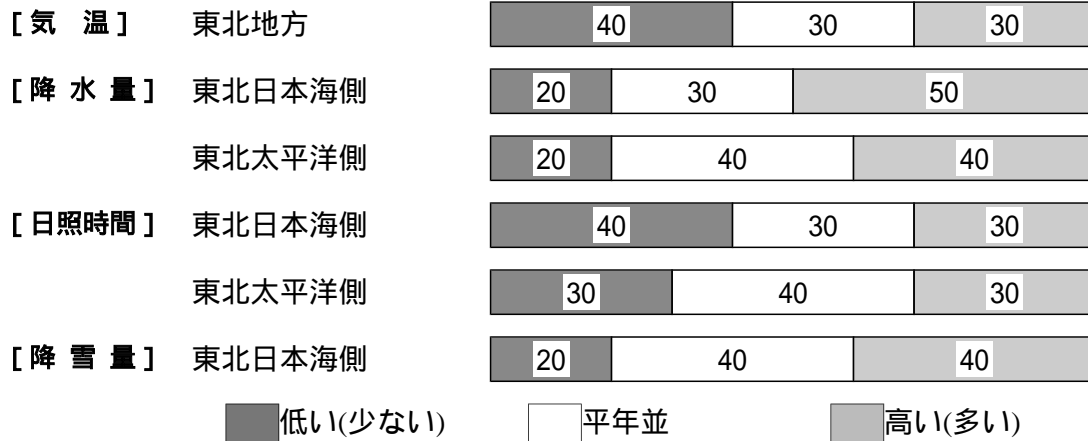
向こう 1 か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

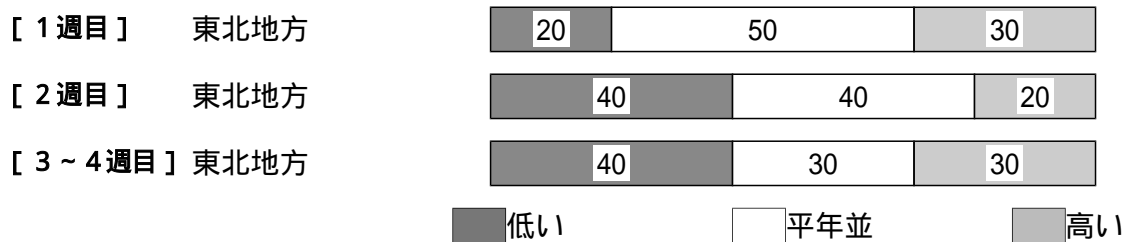
向こう 1 か月の降水量は、東北日本海側で多い確率が 5 0 %、東北太平洋側で平年並または多い確率ともに 4 0 % です。日本海側の降雪量は、平年並または多い確率ともに 4 0 % です。

週別の気温は、1 週目は、平年並の確率が 5 0 % です。2 週目は、平年並または低い確率ともに 4 0 % です。

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率 (%) >



< 気温経過の各階級の確率 (%) >



< 予報の対象期間 >

1 か月 : 1 2 月 1 1 日 (土) ~ 1 月 1 0 日 (月)
1 週目 : 1 2 月 1 1 日 (土) ~ 1 2 月 1 7 日 (金)
2 週目 : 1 2 月 1 8 日 (土) ~ 1 2 月 2 4 日 (金)
3 ~ 4 週目 : 1 2 月 2 5 日 (土) ~ 1 月 7 日 (金)

< 次回発表予定等 >

1 か月予報 : 毎週金曜日 1 4 時 3 0 分 次回は 1 2 月 1 7 日
3 か月予報 : 1 2 月 2 2 日 (水) 1 4 時

< 参考資料（ 平年並の範囲等 ） >

（ １ ） 30 年平均値（ 向こう 1 か月の平均気温、降水量、日照時間、降雪量と 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の平均気温 ）

	気 温 ()	降 水 量 (mm)	日照時間 (時間)	降 雪 量 (cm)	気 温()		
					1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
青森	0.2	143.5	53.5	197	1.3	0.5	-0.2
深浦	1.4	115.2	32.2	95	2.5	1.7	1.0
むつ	0.2	91.0	73.1	127	1.2	0.4	-0.3
八戸	0.5	41.0	128.7	70	1.7	0.9	0.0
秋田	1.6	143.7	45.5	99	2.8	2.0	1.1
盛岡	-0.3	56.9	109.8	83	0.8	0.0	-0.9
大船渡	2.4	36.3	142.1	2	3.5	2.7	2.0
宮古	2.0	38.8	153.5	28	3.1	2.3	1.5
仙台	3.2	30.4	145.5	22	4.4	3.6	2.6
石巻	2.2	28.7	157.7	0	3.4	2.6	1.7
山形	1.2	81.9	83.9	127	2.4	1.6	0.7
新庄	0.2	204.7	37.5	221	1.4	0.6	-0.2
酒田	3.2	182.5	40.6	94	4.4	3.6	2.8
福島	3.1	37.1	130.0	49	4.2	3.4	2.6
若松	0.9	87.3	72.1	141	2.0	1.2	0.3
白河	1.7	27.3	155.1	35	2.9	2.1	1.2
小名浜	5.1	37.8	184.7	0	6.1	5.4	4.6

なお、気温、降水量、日照時間、降雪量の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

（ ２ ） 1971 ～ 2000 年のデータに基づいた向こう 1 か月地域平均の気温、降水量、日照時間、降雪量の平年差（ 比 ）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)	降雪量平年比(%)
東北地方	-0.2 ～ +0.6	76 ～ 101	97 ～ 105	72 ～ 105
東北日本海側	-0.3 ～ +0.6	90 ～ 106	90 ～ 107	82 ～ 109
東北太平洋側	-0.2 ～ +0.7	62 ～ 104	97 ～ 105	59 ～ 106

（ ３ ） この予報期間の 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
東北地方	-0.6 ～ +0.6	-0.6 ～ +0.7	-0.2 ～ +0.7
東北日本海側	-0.6 ～ +0.6	-0.6 ～ +0.7	-0.2 ～ +0.7
東北太平洋側	-0.6 ～ +0.6	-0.6 ～ +0.8	-0.2 ～ +0.7

< 参考資料（ 利用上の注意 ） >

（ １ ） 気温（ 降水量 ）等は、「低い（ 少ない ）」「平年並」「高い（ 多い ）」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1971 ～ 2000 年の 30 年間に於ける各階級の出現率が等分（ それぞれ 33 % ）となるように決めてあります（ 気候的出現率と呼びます ）。

（ ２ ） 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった 10 % 以下や 60 % 以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（ 30 %、40 % ）の確率しか付けられません。

（ ３ ） 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（ 少ない ）場合は「平年に比べて多い（ 少ない ）」、また平年の日数と同程度に多い（ 少ない ）場合には「平年と同様に多い（ 少ない ）」と表現します。なお、単に多い（ 少ない ）と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い（ 少ない ）ことを意味します。

東北地方 1 か月予報解説資料

平成22年12月10日 仙台管区气象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月（12月11日～1月10日）:

冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の降水量は、東北日本海側で多い確率が50%、東北太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。東北日本海側の降雪量は、平年並または多い確率ともに40%です。

1週目（12月11日～12月17日）:

気圧の谷や寒気の影響で、東北日本海側を中心に曇りで雨または雪の日が多いでしょう。東北太平洋側の沿岸部では、期間のはじめは晴れる日がある見込みです。

気温は、平年並の確率が50%です。

2週目（12月18日～12月24日）:

冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

気温は、平年並または低い確率ともに40%です。

3～4週目（12月25日～1月7日）:

冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

気温は、各階級の確率の偏りは小さい。

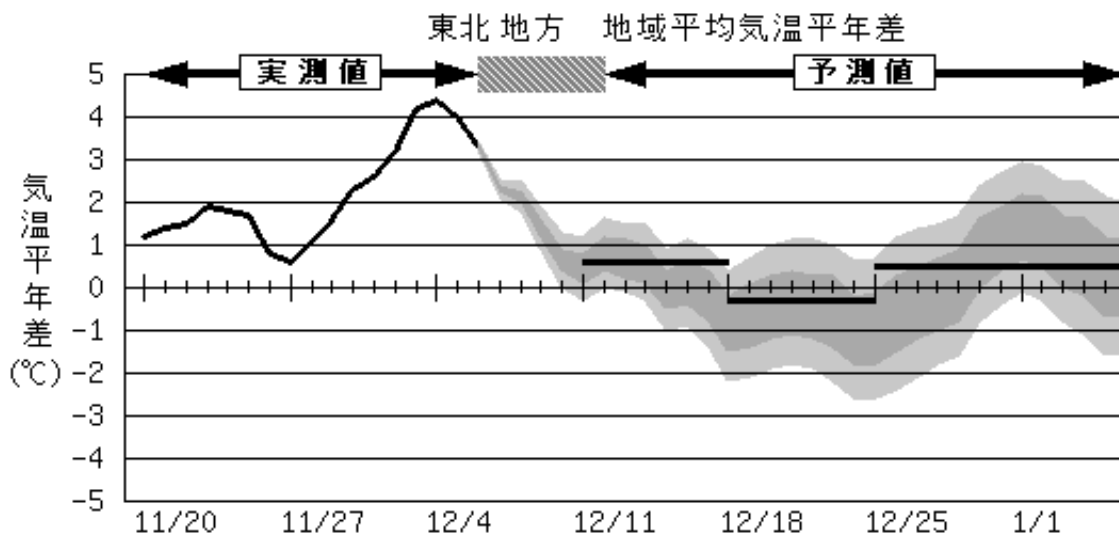
主な気象官署の、向こう4週間の平年の天気出現日数（日）

青 森		秋 田		盛 岡		仙 台		山 形		福 島	
晴れ	降水	晴れ	降水	晴れ	降水	晴れ	降水	晴れ	降水	晴れ	降水
4.8	19.0	3.5	19.3	13.7	9.1	17.9	4.2	8.8	12.6	15.8	5.8

晴れ日数は「日照率40%以上の日数」、降水日数は「日降水量1mm以上の日数」。

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と予測資料

地域平均気温平年差の予測資料では、週別の平均気温は、1週目、2週目、3～4週目ともに平年付近の予想となっている。



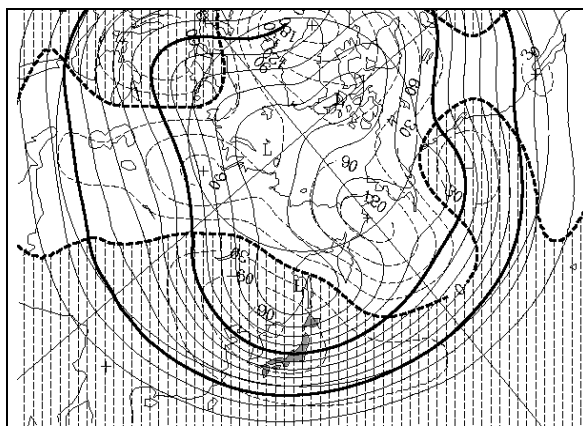
- ・ グラフの値は全て7日間平均値であり、横軸の値は平均期間の中日。
- ・ 予測期間には7日間平均気温の予想に対する信頼の程度が40%の幅(濃い陰影の範囲)と、信頼の程度が70%の幅(濃い陰影と薄い陰影の範囲)を表示。
- ・ 水平な3本の実線は、予報期間の1週目、2週目、3～4週目の平均を表す。
- ・ ハッチの期間は、発表日の観測値が確定していないため、観測値と予測値に基づいて結んでいる。

3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500hPa 予想天気図)

1か月平均: 日本付近は朝鮮半島付近に中心をもつ負偏差におおわれ、寒気の南下が予想されるが、影響を強く受けるのは西日本中心で、北日本への影響は比較的弱い見込み。

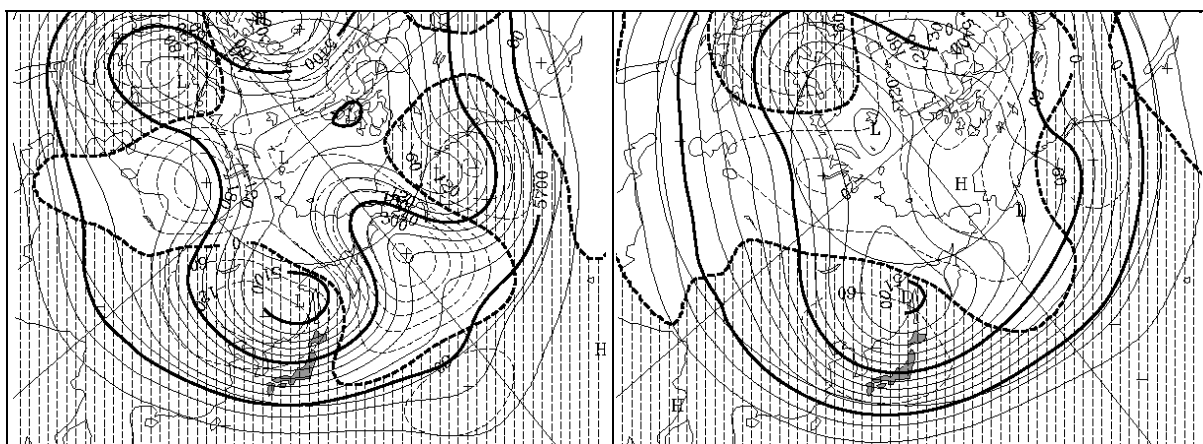
1週目: 大陸には中国東北区に中心をもつ負偏差が、一方北日本の東にはアリューシャン近海に中心をもつ正偏差がひろがり、北日本は西谷傾向。低気圧の影響を受けやすい見込み。

2週目: 日本付近は、朝鮮半島付近に中心をもつ負偏差におおわれる。東北地方は、850hPa 気温偏差図 (図略) でも負偏差となっており、低温傾向が予想される。



1か月平均 500hPa 予想天気図

図の見方は1, 2週目と同じ。ただし偏差の間隔は30m。



1週目平均 500hPa 予想天気図

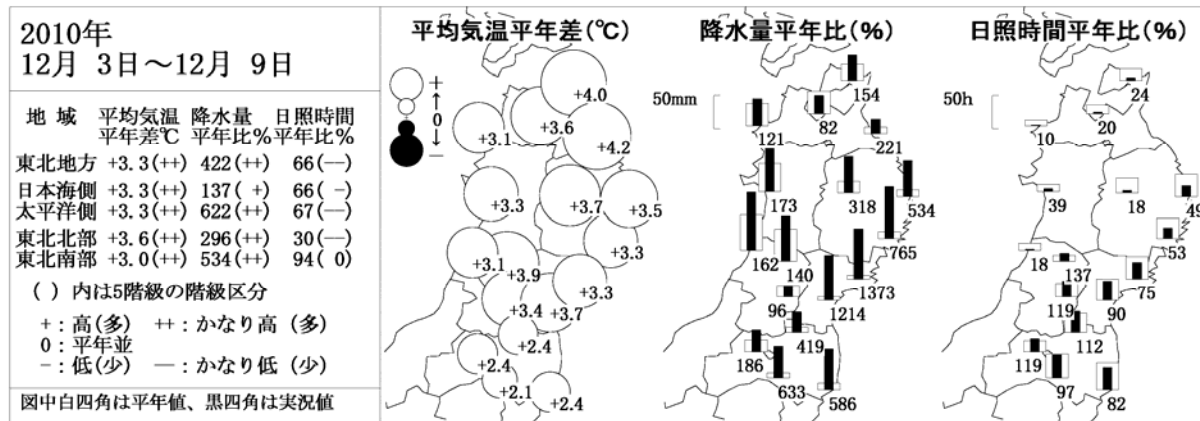
2週目平均 500hPa 予想天気図

実線は等高線 (間隔 60m)、点線は偏差 (間隔 60m)。陰影部は負偏差で一般に寒気に対応し、白抜きは正偏差で一般に暖気に対応する。

4. 最近1週間 (12月3日～12月9日) の天候の経過

この期間、低気圧が周期的に通過し、低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置となったため、曇りや雨または雪の日が多かった。3日から4日にかけては、発達した低気圧が北日本を通過した影響で大荒れの天気となった。気温は北日本を中心に暖気におおわれたため、かなりの高温となった。

平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側でかなり多い。日照時間は東北北部でかなり少なく、東北南部で平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差 (比)